

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1272700426
法人名	株式会社ワカバ
事業所名	グループホームワカバあびこ
所在地	〒 270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸127-1 (電話) 04-7182-8896

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	5月22日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日	ユニット数	2ユニット	利用者定員	18名
1階ユニット(ピーナツ)	常勤専任2名	常勤兼務1名	非常勤5名	常勤換算6.8名	
2階ユニット(コロバー)	常勤専任3名	常勤兼務1名	非常勤3名	常勤換算6.2名	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円 ~ 70,000円		敷金	無
その他費用	共益費26,250円/月, 理美容・おむつ代等実費, 寝具・タオルのリース料105円/日			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有り(期間:2年)	
食材料費	朝食	525 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	1日当たり 1,890 円 / 1ヶ月当たり 56,700 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	15名	男性	7名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	68歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏光陽病院 我孫子聖仁会病院 やばしら歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年に開設され今年で6年目に入る。法人は松戸・柏地域を中心に複数の地域密着型サービスを展開しており、事業所間の繋がりも密である。また各事業所ではISO9001認証(品質ISO)を取得することを進めており、当ホームも取得に向けて書類・環境整備に力を入れている。法人全体で参加する24時間テレビの募金活動は現在も続けられている。現状の課題は職員の定着化である。常勤・パート・人材派遣などのスタッフで構成されるホームだが、ケアの質の均一化、幹部職員の育成、入居者・家族との馴染みの関係作りなどに力を入れていく予定である。また、地域との連携強化についても、引き続き取り組んでいく方針である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度に改善課題として挙げられた事項は、すべて引続き課題となっている。地域との連携は、自治会、老人会等があまり盛んではなく、民生委員とのつながりも無いため、取り組みが課題となっている。運営推進会議も参加者・回数ともに少ない状況である。災害時連携も、地域との繋がりが弱い為、体制を作るまでには至っていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は主として常勤職員で話し合って作成した。話し合いの中で、入居者への接遇について、更に力を入れていこうという声があがった。また、自己評価項目を職員で話し合うことで職員それぞれが漠然と考えていた事が、皆の共通認識となり、課題が明確化したとの事である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の内容は、ホームの運営報告、外部評価結果公表、24時間テレビの募金協力の報告、などである。また、2ヶ月に1回の定期開催を維持できるよう、今後も力を入れたいと考えており、次回は花見を兼ねた会議の開催を予定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会が無いが、運営推進会議に参加する家族の意見等は聴取している。また、面会時などに職員が声かけし、意見・要望を聴き取っている状況である。今後も引き続き家族との信頼関係の強化を図り、何でも話し合える関係性をつくる事が求められる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	古くからの住民と新興住宅が入り混じる地域であり、自治会や老人会等の活動はあまり活発とはいえない状況である。現在、自治会長とともに今後の方向性を話し合っている。民生委員との連携はこれからというところである。入居者が地域住民の一員として、安心・安全かつ楽しく暮らすために、引き続き地域との繋がりが構築が期待される。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(株)ワカバの介護方針である「思いやりといたわりの心」のもと、個の尊重、家族とのよりよい関係作り、地域密着などをモットーに掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関と事務所に掲示され職員間で共有されている。また、新人職員には、働き始めて2ヶ月目と3ヶ月目に理念の確認を行っている。地域密着という新しい概念については、ようやく職員全員に浸透してきたところである。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出や外食などには積極的に出かけている。しかしながら、自治会や老人会などの地域活動が活発ではなく、連携しあう関係には至っていない。また、民生委員とのつながりも無い状況である。		災害時連携や地域の介護ニーズの把握など、地域密着型サービスの事業所として必要なことを、出来る事から進めていくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価には主として常勤職員が臨んでいる。自己評価を行った結果、職員各自が漠然と考えていたことが一元化され、共通認識となった。今後は、入居者への接遇に力を入れていきたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されるが、参加者は減少傾向にある。内容は、ホームの運営報告、外部評価の結果、意見交換などである。		2ヶ月に1度の定期開催を維持していくため、会議の開催の仕方を工夫しているところであり、今後が期待される。次回は、ホーム行事である花見と兼ねて行う予定である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	我孫子市主催の講演会や研修会に参加している。権利擁護の関係窓口との連携や、市役所内にある地域包括支援センターとも必要に応じて連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「介護連絡票」という様式があり、月ごとの入居者個々の様子を記載して家族に送付している。必要があれば随時、電話もかけている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見・要望を聴くようにしている。しかしながら、職員から意識的に働きかけないと、家族から意見が出ないという状況にある。		積極的に意見を言ってくれる家族もいるが、なかなか職員に話しかけられない家族の意見をどのように吸い上げ反映させていくか、工夫が必要と思われる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が下がっているため、法人・事業所ともに、人材育成に取り組んでいる。正職員・非常勤職員のほかに派遣労働のケアワーカーも採り入れ、人手が不足して入居者に影響が出ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の事業計画にも研修を盛り込んで、人材育成を図り、定着率アップを目標にしているが、実現には至っていない。		人材育成計画の実行・実現が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会等に参加しているが、ホームの業務に追われ、あまり集まりには参加できていない。また、地域密着型サービスの有り方について模索しているところなので、意見交換の機会を作りたいと感じている。		地域密着型サービスの有り方に関する、同業他社との意見交換作りを、実現することが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは見学でホームの雰囲気を覚えてもらい、なるべく納得の上で入居してもらっている。居室には馴染みの品などを持ち込んで、安心できる居場所作りを心掛けている。入居者の中に面倒見のよい人がいて、ホームのことを親切に教えてあげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	清掃やリネン・タオル洗濯は業者委託とし、職員が入居者と過ごす時間をより長く確保し、職員は、入居者のその日の気持ちにあわせ、食事の準備・片付け・掃除などを共に行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から思いや意向を聞き取っている。また、連絡票や申し送りなどを使って、その情報を全職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者、居室担当者、場合によっては家族、市の職員、医師など関係者を交えて話し合い、介護計画を作成し家族の同意を得ている。また、評価会議も開催しサービスの評価を行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6か月ごとに見直しをしており、入退院時、体調を崩したときなどは随時見直しを行っている。なお、介護計画は会議や計画書の回覧で全職員と共有を図っている。また、日常のケアでの気づきは介護計画書にも記載され、介護計画の見直しに反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別に入居者の通院や外出の支援を行っている。昨年度指定を受けた、認知症対応型通所介護は休止している。今後はホームの機能を地域に還元したいと考えている。		自治会に声をかけ、地域の人たちを対象とした「高齢者体験」や「救急救命教室」などを開きたいと考えており、今後の実現への取り組みが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医のほか、家族の同意を得た上でホームの提携医療機関での受診支援を行っている。また近隣の病院が新たな提携医療機関として加わることになっており、急変時の搬送及び健康診断を考えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに関する指針があり、職員間の共有も出来ている。また、入居時に家族に説明し同意を得ている。重度化が予測される場合は家族、主治医と話し合い方針を決めており、家族が望めば看取りも可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳やプライバシーを守るため、管理者研修のフィードバックや市発行のテキストを利用し職員研修を行っている。また、個人情報の記載された書類等は事務所で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間の起床、時間をかけた食事、居室での昼食、外出、夜間のテレビなど入居者のペースを大切に、希望に沿った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日勤の職員が入居者の希望も取り入れ昼食を作っている。ときには外食や寿司などの出前もある。入居者は食事後の下膳、食器洗い、テーブル拭きなど後片付けを職員とともにやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯に行い、週2回以上の入浴の機会を確保するようにしている。また、入浴を拒否する入居者に対しても根気強く働きかけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、絵描き、編み物、雑巾縫いなどを楽しんでいる入居者がいる。また、同法人内施設へカラオケに行く人もいる。今後はボランティアにも来てもらい、将棋や碁を楽しめるようにしたいと考えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿った買い物や散歩の支援を行っている。天気の良い日にはドライブを楽しむこともある。希望で洋服の買い物に出かけた入居者もいた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけていない。2階フロアから一旦外に出て1階のリビングにお茶を飲みに来る入居者もいる。外出願望の入居者は職員がともに外出し対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡体制や水・乾パンなどの備蓄は行われている。また、消防計画の作成を行っているが、避難訓練や地域との協力体制が不十分と思われる。		さまざまな場面を想定した訓練を重ねて、全職員の危機意識を高める取り組みが期待される。また、地域の人達からの支援が得られるよう運営推進会議を通じた自治会への働き掛けも必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事管理が必要な入居者への食事量や水分量は記録している。また、1週間の献立表で栄養バランスもチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が集うリビングには時計や手作りカレンダーのほか、入居者が作った書画が飾られている。大きなソファや椅子も置かれくつろげるスペースとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはたんすなど使い慣れた家具やテレビなどが置かれている。家から持ってきた亀を飼っている入居者もいる。		